

2025 年度

学生生活実態・満足度調査報告書

2026/7
IR センター

エグゼクティブサマリー

1. 調査概要

本調査は、学生生活の実態と満足度を把握し、学生支援、教育環境およびキャンパス運営の改善につなげることを目的として実施した。分析対象は407件の回答であり、設問ごとに有効回答者数を分母として集計した。住居形態、食生活、学修行動、相談・支援窓口の認知および利用、学内施設の利用、学生生活の充実度・成長実感について横断的に把握した。

集計結果からは、学生の生活実態や支援情報の認知状況が一律ではないことが確認された。例えば、朝食を「毎日食べている」は52.1%にとどまる一方、昼食は79.6%、夕食は86.7%であり、食生活の安定度に差がみられる。また、学生相談室の利用方法については「あまり知らない」45.0%、「まったく知らない」12.0%で、認知に課題がみられる。奨学金制度についても「あまり知らない」26.5%、「まったく知らない」7.4%であった。

問い合わせ・相談先としては、学生生活支援課、教務課、学科事務・準備室を含む回答が多くみられ、これらの窓口が主要な接点となっていることが示唆される。このため、相談内容に応じた窓口案内を明確化し、誤った窓口に相談した場合でも適切な部署へ確実につなぐ導線整備が重要である。

一方、学生生活の充実度と成長実感については肯定的回答が多く、学生生活の充実度は「とても充実している」32.0%と「おおむね充実している」62.1%で計94.1%、成長実感は「とてもある」24.9%と「少しはある」63.5%で計88.4%であった。ただし、少数ながら否定的回答層も存在することから、全体傾向だけでなく、属性別・個別支援の視点をあわせて検討する必要がある。

2. 重要なインサイト

本調査結果から、特に次の3点が重要な示唆として得られた。

2-1. 学生生活全体の満足度・成長実感は高く、教育環境への評価は概ね良好である。

学生生活の充実度（94.1%、n=406ベース）および成長実感（88.4%、n=405ベース）はいずれも高い水準にあり、全学的な学生生活・教育活動に対する評価は総じて良好である。こ

れは本学の教育・学生支援の強みを示す結果といえる。なお、後述する学修関連設問群（有効回答数76～89件程度）は分母が大きく異なるため、全体指標とは区別して解釈する必要がある。

2-2. 支援制度や相談窓口の認知に課題があり、学生が必要な支援へ円滑にアクセスできる環境整備が課題である。

学生相談室の利用方法を十分に知らない学生は57.0%、奨学金制度を十分に知らない学生も33.9%存在した。支援制度を整備するだけでなく、学生が必要なときに適切な窓口へ到達できるよう、情報提供と相談導線の改善が求められる。

2-3. 学生生活全体の評価は高いものの、一部の学生には生活習慣や学修成果に課題がみられることから、全体最適と個別最適の両面から学生支援を充実させる必要がある。

朝食摂取（毎日食べている52.1%）や睡眠状況（平日「3時間以上6時間未満」51.6%（210人）、「6時間以上9時間未満」45.2%（184人）、n=406～407規模）に加え、学修関連設問（有効回答数76～89件程度）における問題発見・解決能力の自己評価にもばらつきがみられた。全体集計では見えにくい支援ニーズを把握するため、今後は学科別・学年別・属性別分析や自由記述を活用した個別支援の充実が重要となる。

3. 詳細説明

3-1. 回答者の生活基盤には多様性がみられる。

住居形態は「家族・親族等と同居」が406件中333件（82.0%）と多数を占める一方、「1人暮らし」も62件（15.3%）みられ、少数ながら「活水看護寮」（5件、1.2%）やその他の居住形態（6件、1.5%）も含まれる。したがって、生活支援や情報提供はさまざまな形態の学生像、異なる生活条件を想定して設計する必要がある。

3-2. 食生活の安定度には差がみられる。

朝食を「毎日食べている」は52.1%にとどまる一方、昼食は79.6%、夕食は86.7%であり、食事の摂取状況に差がある。毎日食べる学生が多数を占める項目がある一方で、一部しか食べない

学生も存在しており、食生活と健康、授業への集中、生活リズムとの関係を継続的に把握する必要がある。

3-3. 睡眠や授業中の眠気など、日常生活指標にはばらつきがある。

平日の睡眠時間は「3 時間以上 6 時間未満」が 51.6% (210 人)、「6 時間以上 9 時間未満」が 45.2% (184 人) となっており、休日は「6 時間以上 9 時間未満」が 70.2% (285 人) を占める。また、授業中の眠気については「ほとんどない」42.1% (171 人) に対し、「週 1～2 日くらいある」が 42.6% (173 人) みられ、一定数の学生に日常的な眠気が生じていることがうかがえる。平均的な生活像だけでなく、生活リズムが不規則になりやすい学生への配慮をどう考えるか継続調査をしていく必要がある。

3-4. 学生生活とアルバイトの両立は概ね肯定的に捉えられているが、一部に負担を抱える層が存在する。

「両立できている」47.9% (195 人)、「おおむね両立できている」39.8% (162 人) であり、多くの学生は両立可能と認識している。一方で、少数ながら両立が難しいとする回答も存在するため、学修時間や生活時間への影響を含め、困難を抱える学生を早期に把握する視点が必要である。

3-5. 課外活動への参加状況は一様ではない。

ボランティア活動については「したことがない」が 55.4% (225 人) で最も多く、部活動・サークル活動についても「活動はしていない」が 69.3% (280 人) を占めた。課外活動に積極的に関与する学生がいる一方で、参加していない学生も多数存在しており、学生経験の幅には大きな差がある。

3-6. 支援制度・相談窓口に関する認知には課題がみられる。

奨学金制度については「あまり知らない」26.5%、「まったく知らない」7.4%で、十分に認知していない層が計 33.9%みられる。学生相談室の利用方法については「あまり知らない」45.0%、「まったく知らない」12.0%で、計 57.0%が十分に把握できていない。支援制度や相

談窓口は、存在を知らせるだけでなく、利用条件、申請方法、相談内容との対応関係まで具体的に案内する必要がある。

3-7. 学生支援の利用先は複数に分かれており、相談導線の明確化が重要である。

問い合わせ・相談先としては、学生生活支援課、教務課、学科事務・準備室を含む回答が多くみられ、これらの窓口が主要な接点となっていることが示唆される。一方で、「いずれも利用したことがない」も 12.4%みられることから、学生が相談内容に応じて適切な窓口へ到達できる案内と、窓口間で確実に引き継ぐ運用が必要である。

3-8. 学内施設の利用状況には施設ごとの差が大きい。

図書館は「ほとんど利用していない」が 41.3% (168 人)、情報処理室は 59.6% (242 人) であり、授業時以外の利用は限定的である。一方、学生ホール・ラウンジは「週 3～4 日くらい」31.6% (108 人)、「週 5 日以上」21.1% (72 人) で比較的使用頻度が高く、キャンパスショップも「週 1～2 日くらい」31.6%を占める。施設ごとの利用実態は一律ではなく、学習支援施設と生活支援施設では役割の違いを踏まえた改善が求められる。

3-9. 学生生活の充実度と成長実感は全体として高いが、少数の否定的回答にも留意が必要である。

成長実感については「とてもある」24.9%と「少しはある」63.5%で、肯定的回答は計 88.4%である。学生生活の充実度についても「とても充実している」32.0%と「おおむね充実している」62.1%で、肯定的回答は計 94.1%であった。ただし、少数ながら否定的回答も存在するため、全体傾向だけで判断せず、属性別分析や自由記述を併用して具体的課題を把握する必要がある。

3-10. 学修関連設問では、一定の学修成果実感がみられる一方、支援を要する層も存在する。

学修関連設問群では、「教え方の工夫がある程度あった・よくあった」が計 96.1%、「大学の学びによって成長を実感している」が計 85.7%であり、教育活動への評価は概ね肯定的である。一方、「問題を見つけて解決方法を考える力」では「あまり身に付いていない」が 22.1%みられるなど、学修成果の実感には差がある。したがって、学修支援は一律ではなく、学習方法や学修継続に課題を抱える学生も視野に入れて設計する必要がある。なお、これらの設問は有効回答数が 76～89 程度であり、全体 407 件とは分母が異なる点に留意が必要である。

3-11. 少数回答と設問ごとの有効回答数の違いは、解釈上の重要な留意点である。

未回答や設問分岐の影響により、全回答 407 件と各設問の有効回答数は一致しない（例：住居形態は 406 件、朝食・昼食・夕食は 407 件程度、学修関連設問は 76～89 件程度）。したがって、図表間の比較では必ず各設問の有効回答数を確認し、異なる分母による割合を単純比較しないことが重要である。また、少数回答の選択肢は全学的傾向を直ちに示すものではないが、支援上の重要な兆候である可能性があるため、実数、属性別傾向、自由記述をあわせて慎重に判断する必要がある。

4. 改善提言

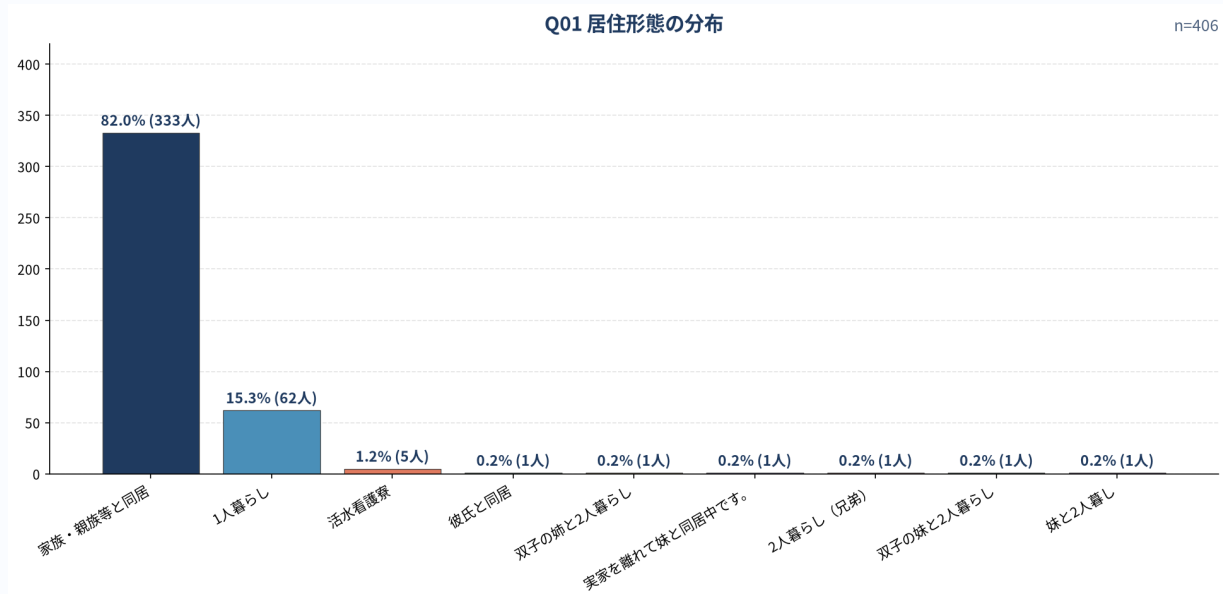
以上を踏まえると、共通する改善課題は、支援制度・相談窓口に関する情報の到達率向上、窓口の役割分担の明確化、困難を抱える学生を早期に適切な支援へつなぐ仕組みの整備に整理できる。全体集計だけでなく、学科別・学年別の傾向と自由記述を組み合わせる検討することが、より実効的な改善計画につながる。

なお、次ページ以降には設問ごとの集計結果を掲載する。

Q01

居住形態の分布

n=406

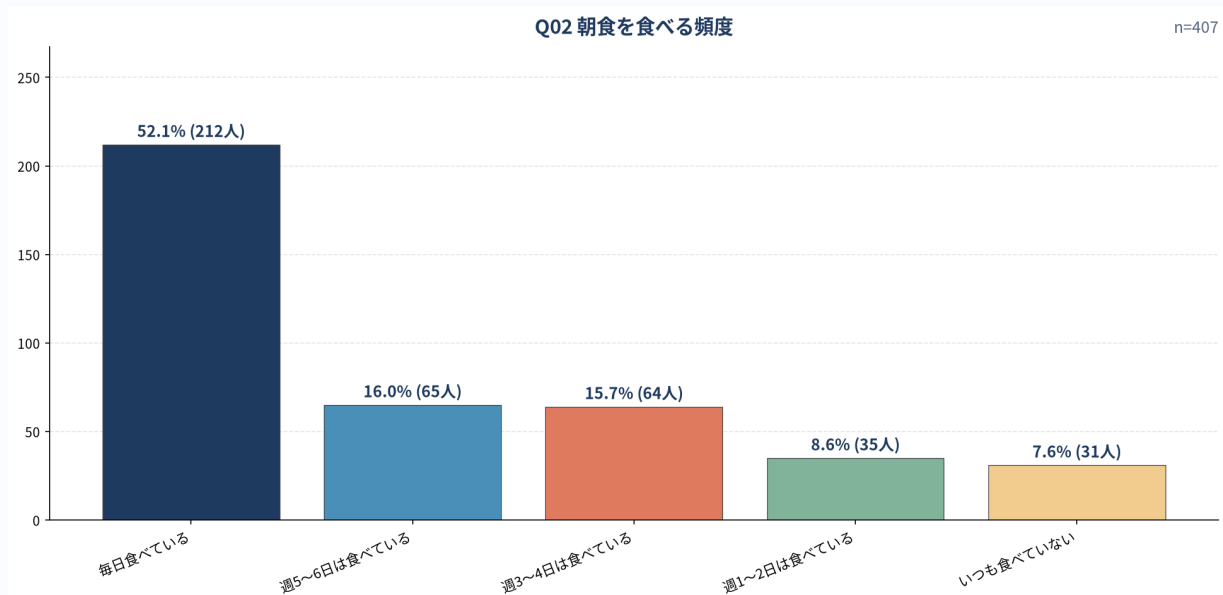


家族・親族等と同居 82.0% (333) / 1人暮らし 15.3% (62) / 活水看護寮 1.2% (5) / 彼氏と同居 0.2% (1) / 双子の姉と2人暮らし 0.2% (1) / 実家を離れて妹と同居中です。 0.2% (1) / 2人暮らし 0.2% (1) / 双子の妹と2人暮らし 0.2% (1) / 妹と2人暮らし 0.2% (1)

Q02

朝食を食べる頻度

n=407

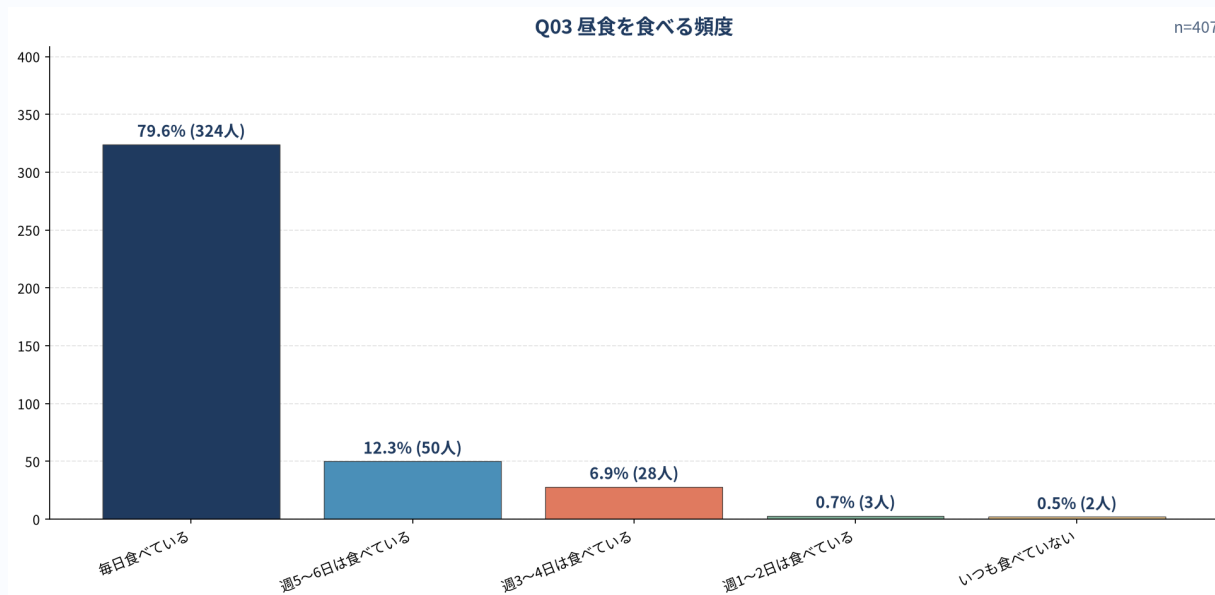


毎日食べている 52.1% (212) / 週5～6日は食べている 16.0% (65) / 週3～4日は食べている 15.7% (64) / 週1～2日は食べている 8.6% (35) / いつも食べていない 7.6% (31)

Q03

昼食を食べる頻度

n=407

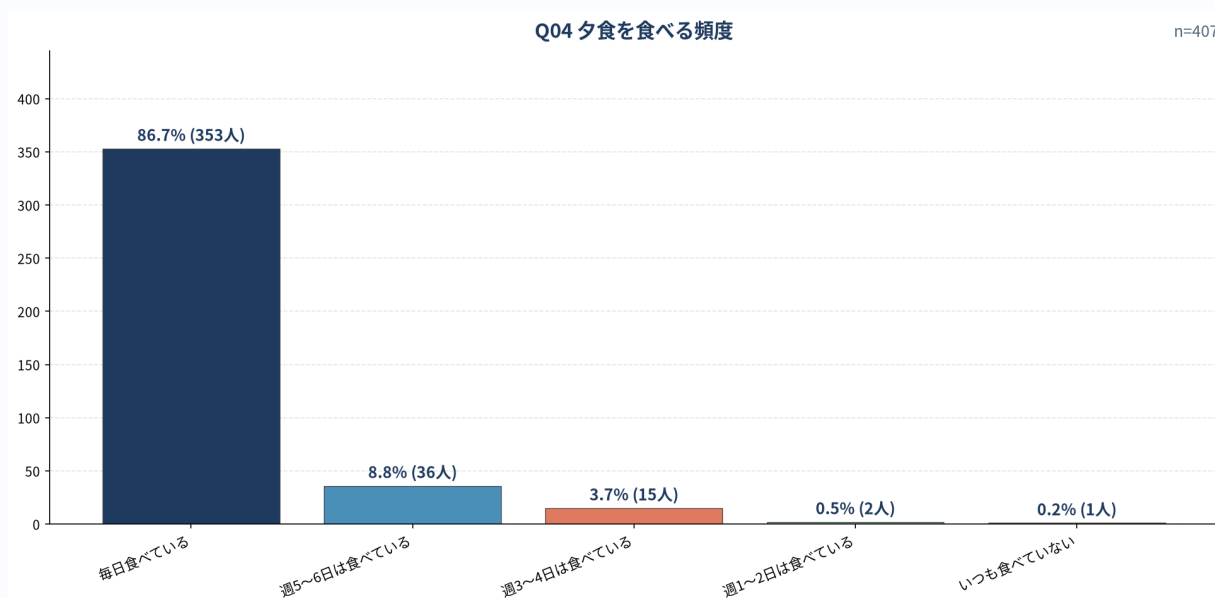


毎日食べている 79.6% (324) / 週5～6日は食べている 12.3% (50) / 週3～4日は食べている 6.9% (28) / 週1～2日は食べている 0.7% (3) / いつも食べていない 0.5% (2)

Q04

夕食を食べる頻度

n=407

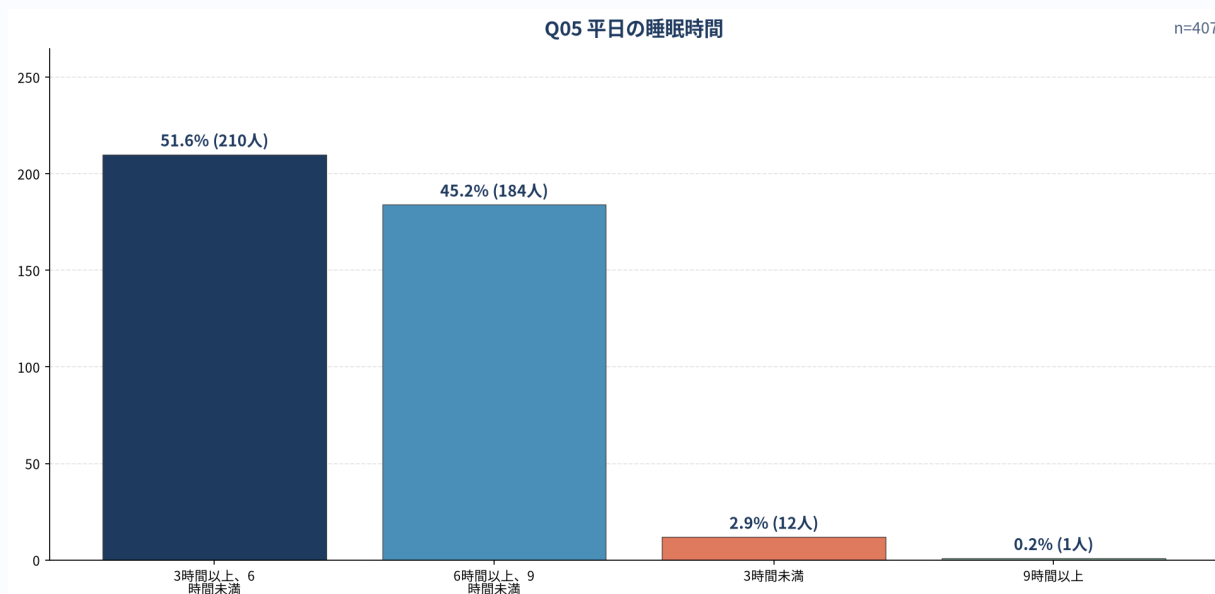


毎日食べている 86.7% (353) / 週5～6日は食べている 8.8% (36) / 週3～4日は食べている 3.7% (15) / 週1～2日は食べている 0.5% (2) / いつも食べていない 0.2% (1)

Q05

平日の睡眠時間

n=407

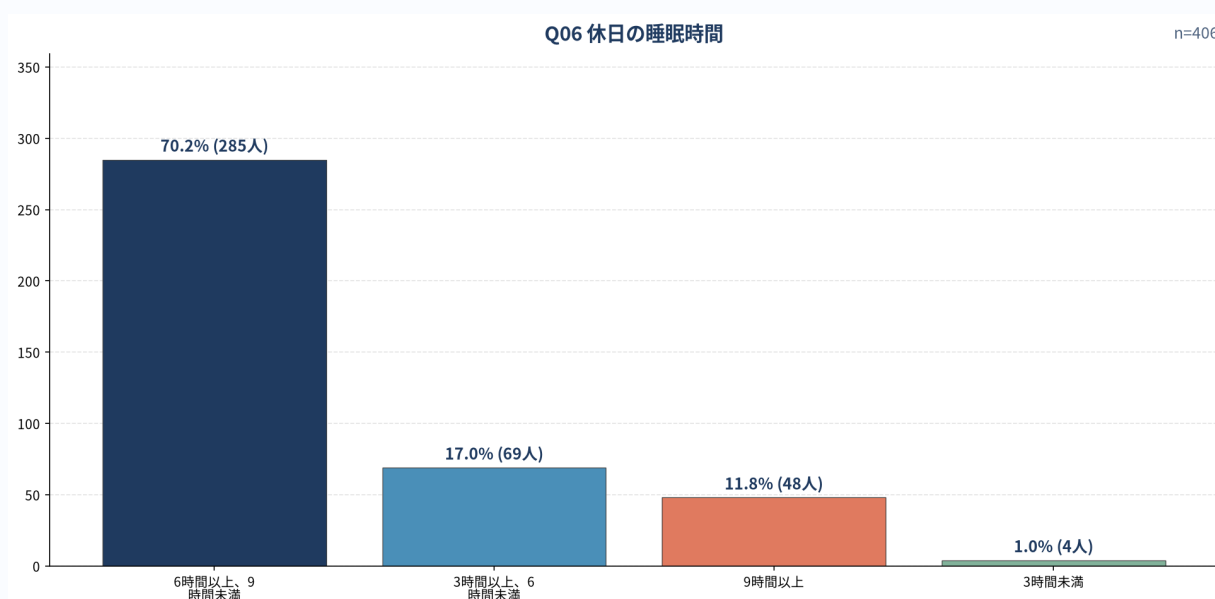


3時間以上、6時間未満 51.6% (210) / 6時間以上、9時間未満 45.2% (184) / 3時間未満 2.9% (12) / 9時間以上 0.2% (1)

Q06

休日の睡眠時間

n=406

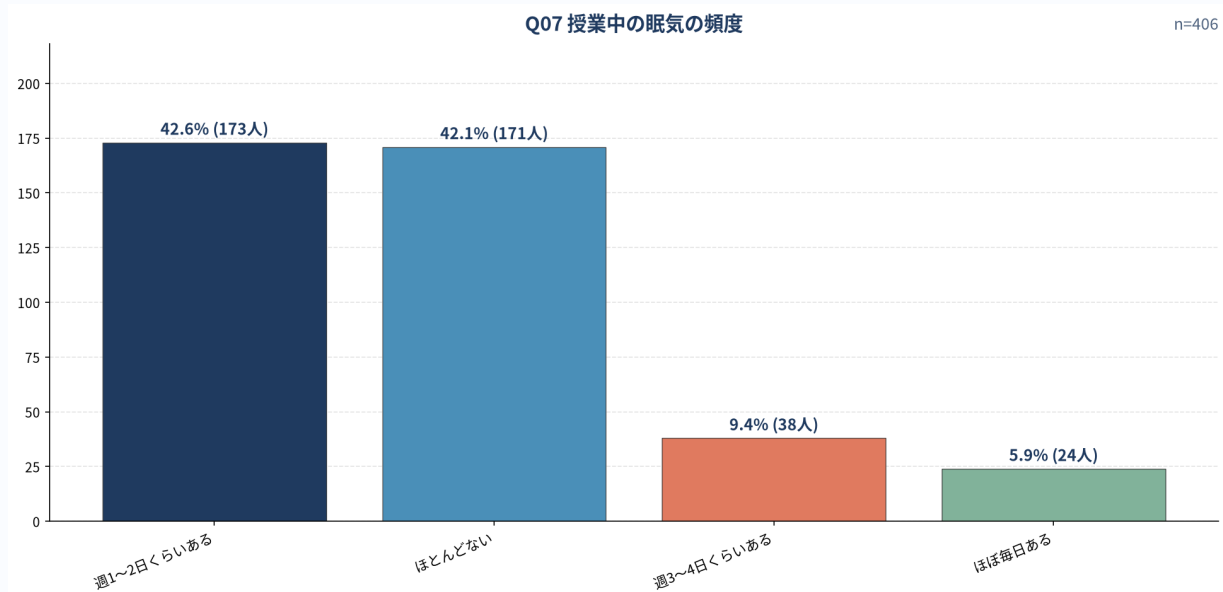


6時間以上、9時間未満 70.2% (285) / 3時間以上、6時間未満 17.0% (69) / 9時間以上 11.8% (48) / 3時間未満 1.0% (4)

Q07

授業中の眠気の頻度

n=406

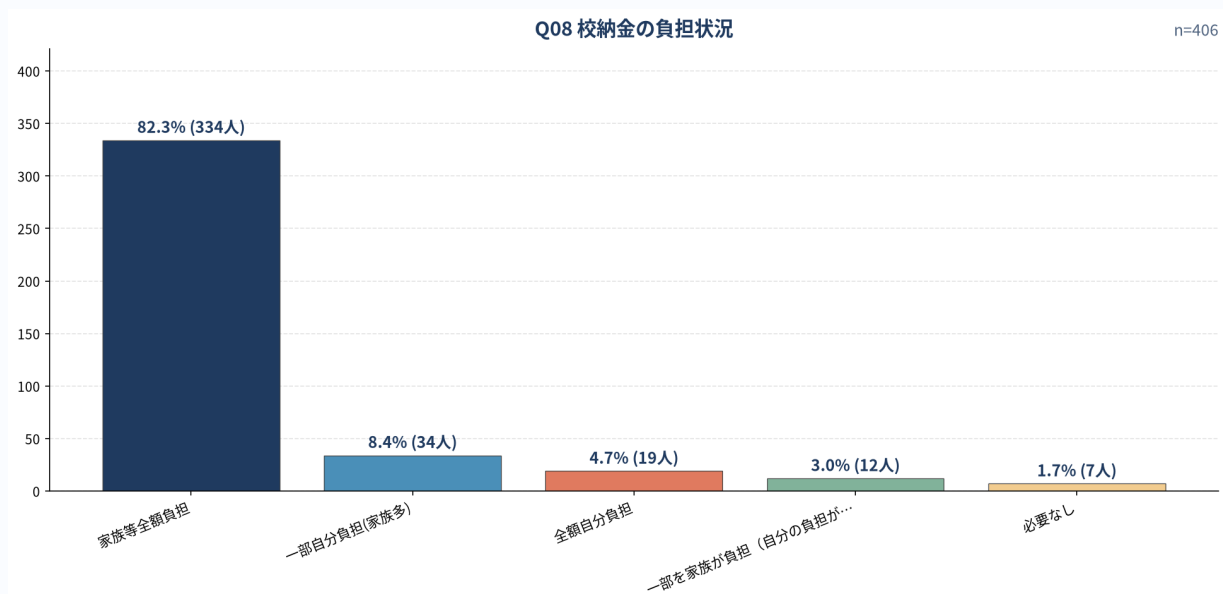


ほぼ毎日ある 5.9% (24) / 週3〜4日くらいある 9.4% (38) / 週1〜2日くらいある 42.6% (173) / ほとんどない 42.1% (171)

Q08

校納金の負担状況

n=406

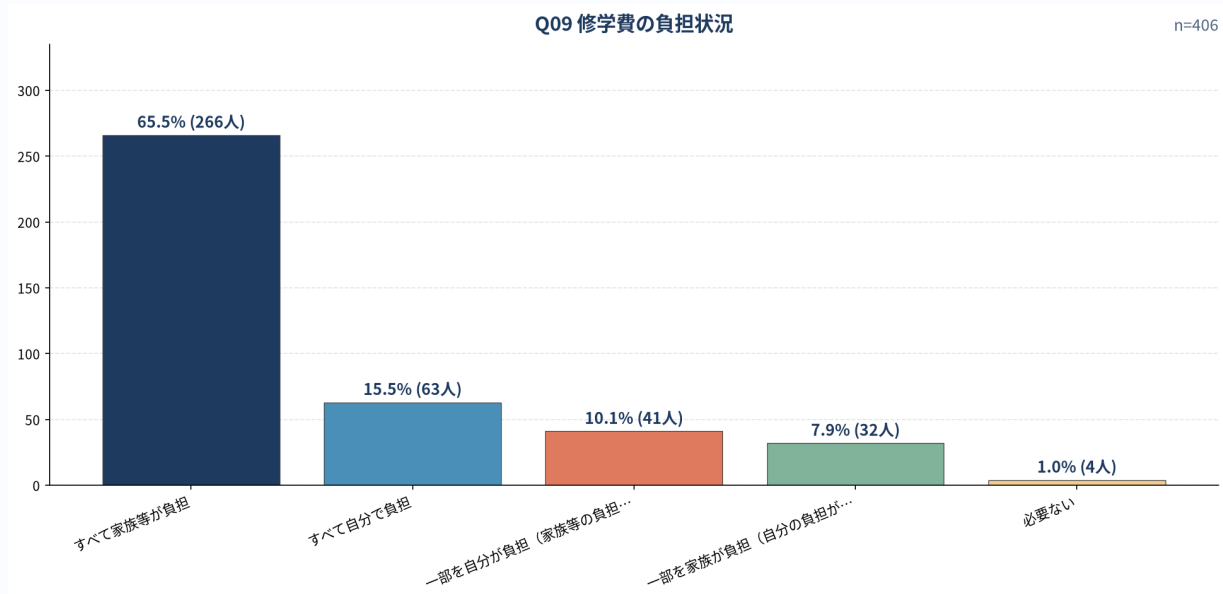


すべて家族等が負担 82.3% (334) / 一部を自分が負担 8.4% (34) / すべて自分で負担 4.7% (19) / 一部を家族が負担 3.0% (12) / 必要ない 1.7% (7)

Q09

修学費の負担状況

n=406

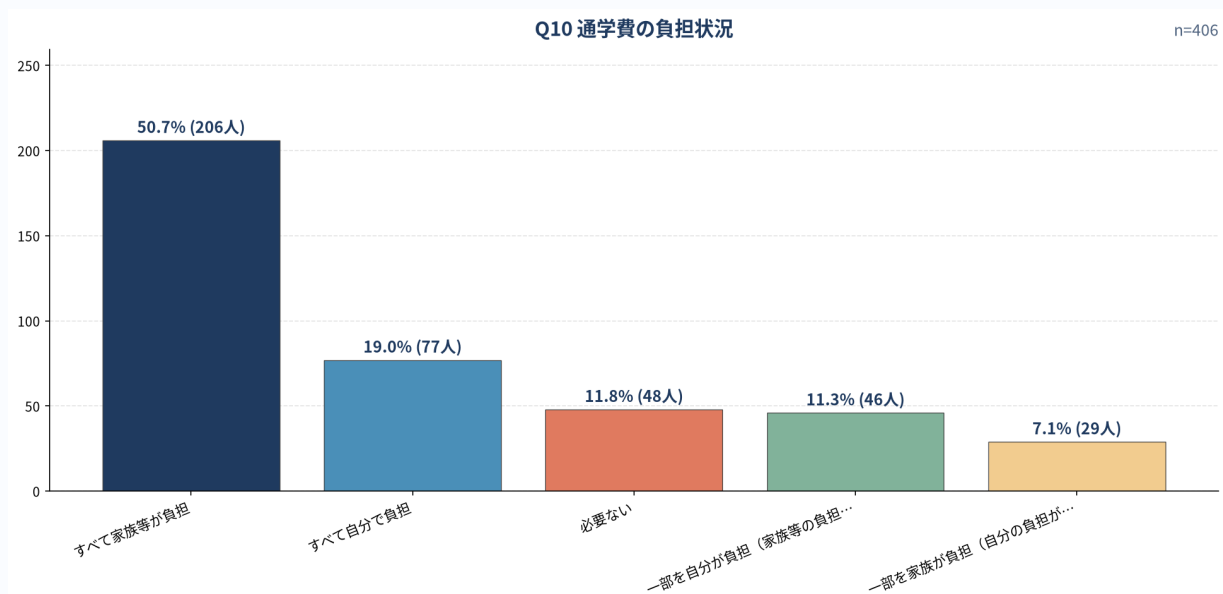


すべて家族等が負担 65.5% (266) / すべて自分で負担 15.5% (63) / 一部を自分が負担 10.1% (41) / 一部を家族が負担 7.9% (32) / 必要ない 1.0% (4)

Q10

通学費の負担状況

n=406

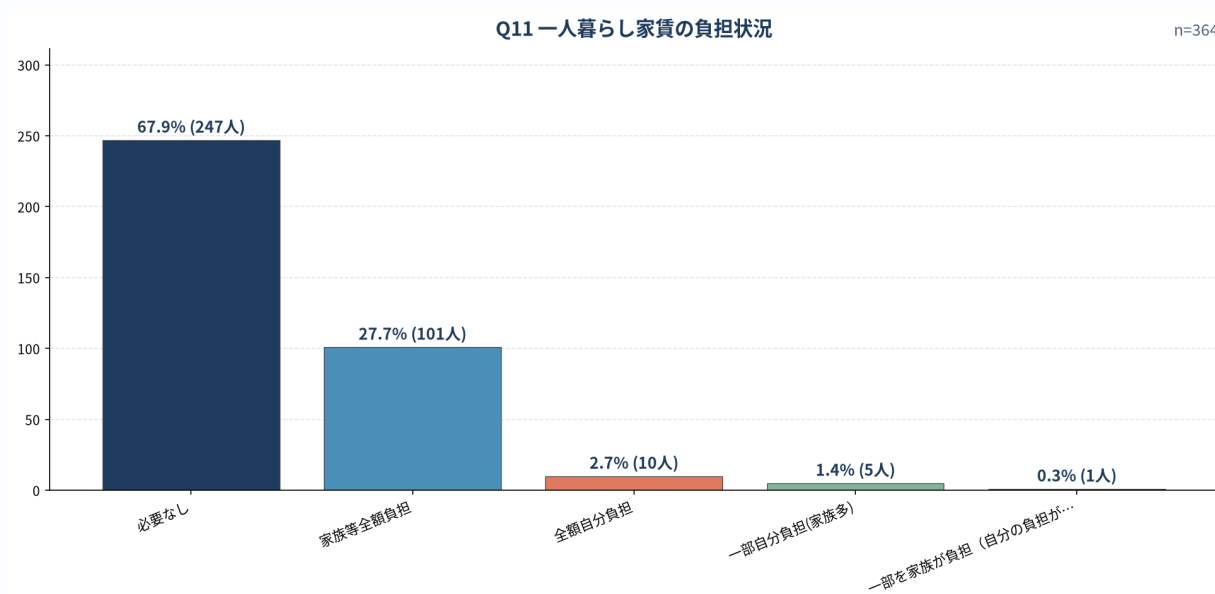


すべて家族等が負担 50.7% (206) / すべて自分で負担 19.0% (77) / 必要ない 11.8% (48) / 一部を自分が負担 11.3% (46) / 一部を家族が負担 7.1% (29)

Q11

一人暮らし家賃の負担状況

n=364

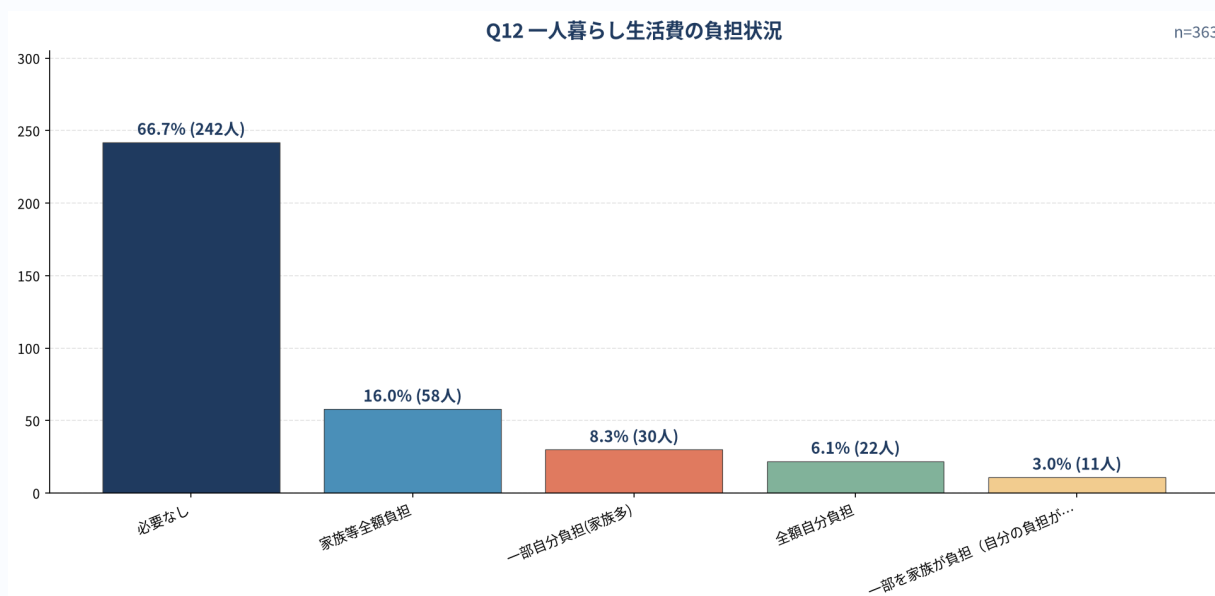


必要ない 67.9% (247) / すべて家族等が負担 27.7% (101) / すべて自分で負担 2.7% (10) / 一部を自分が負担 1.4% (5) / 一部を家族が負担 0.3% (1)

Q12

一人暮らし生活費の負担状況

n=363

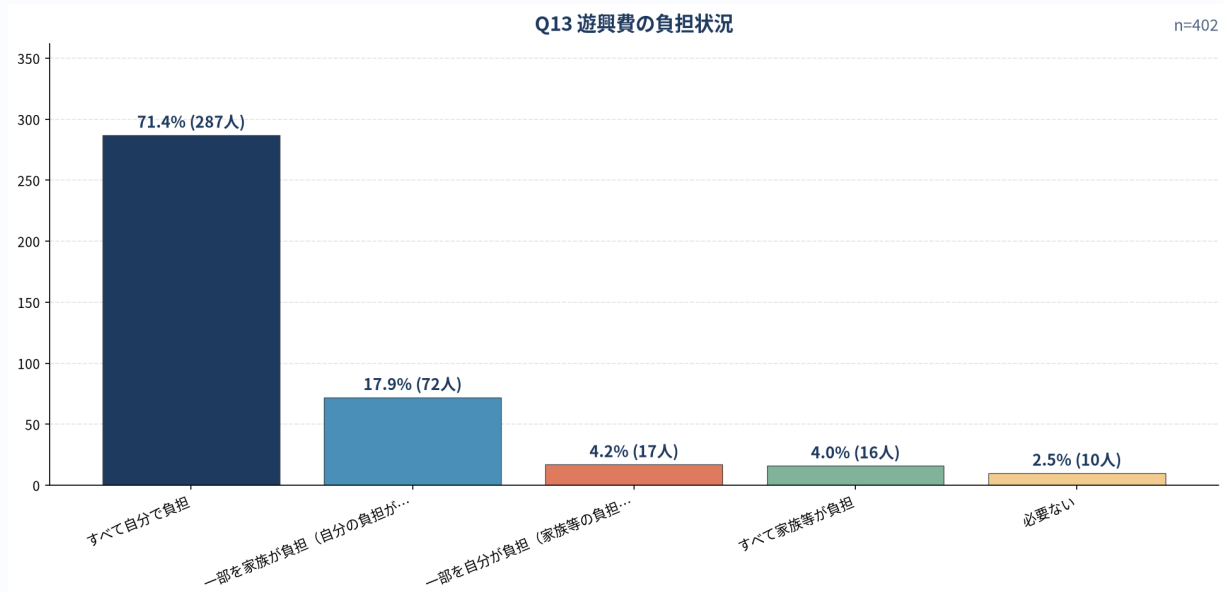


必要ない 66.7% (242) / すべて家族等が負担 16.0% (58) / 一部を自分が負担 8.3% (30) / すべて自分で負担 6.1% (22) / 一部を家族が負担 3.0% (11)

Q13

遊興費の負担状況

n=402

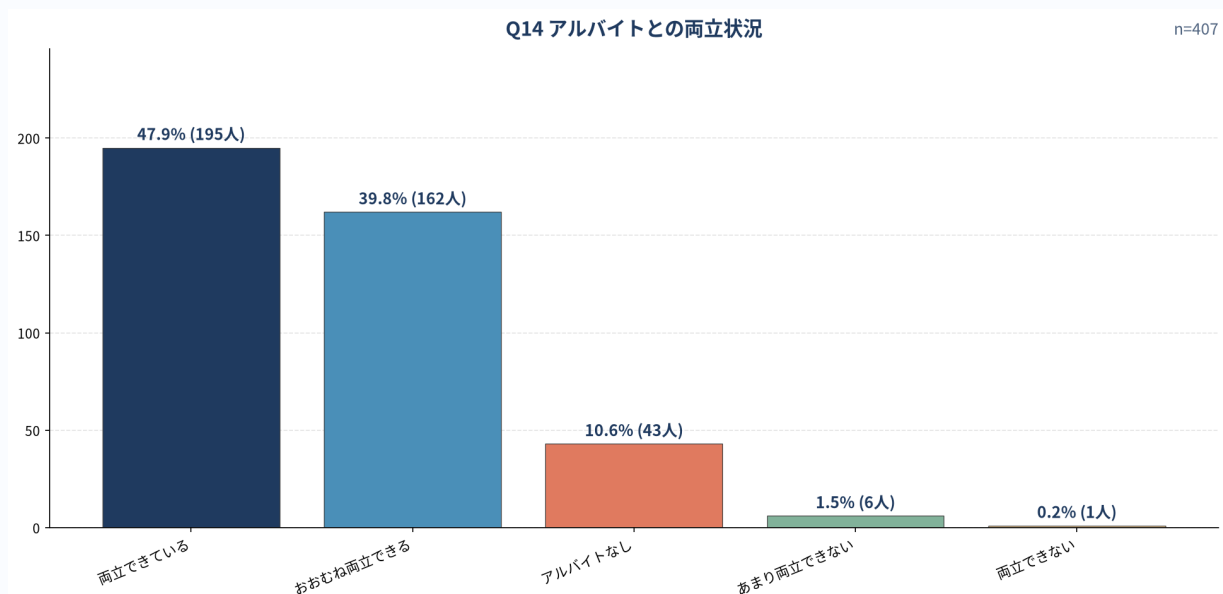


すべて自分で負担 71.4% (287) / 一部を家族が負担 17.9% (72) / 一部を自分が負担 4.2% (17) / すべて家族等が負担 4.0% (16) / 必要ない 2.5% (10)

Q14

アルバイトとの両立状況

n=407

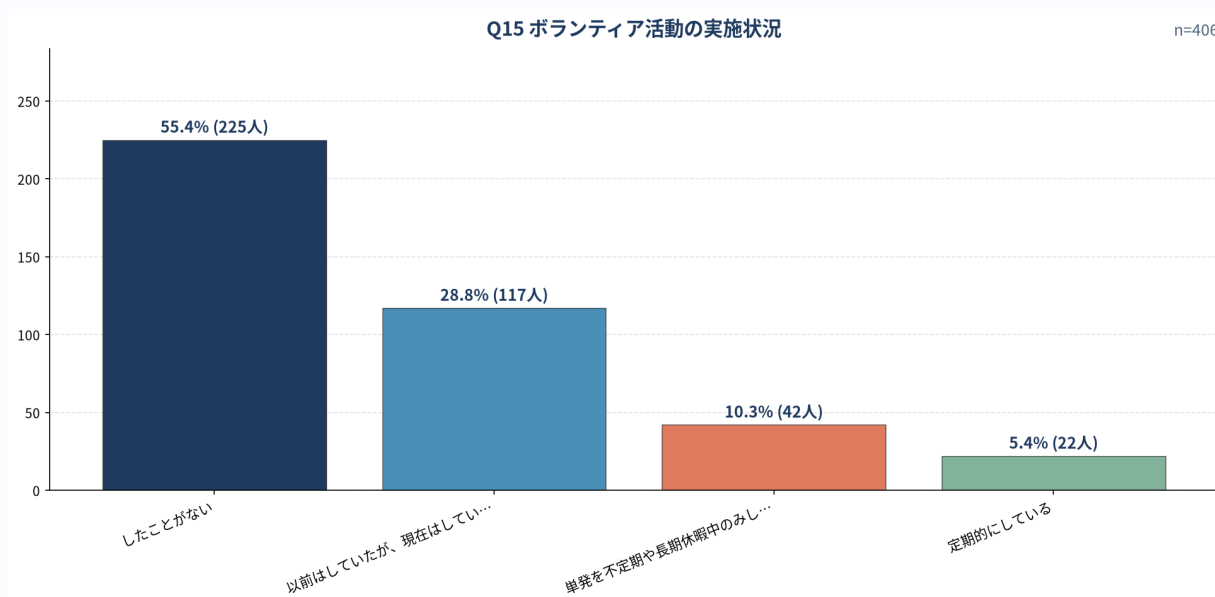


両立できている 47.9% (195) / おおむね両立できている 39.8% (162) / アルバイトはしていない 10.6% (43) / あまり両立できていない 1.5% (6) / 両立できていない 0.2% (1)

Q15

ボランティア活動の実施状況

n=406

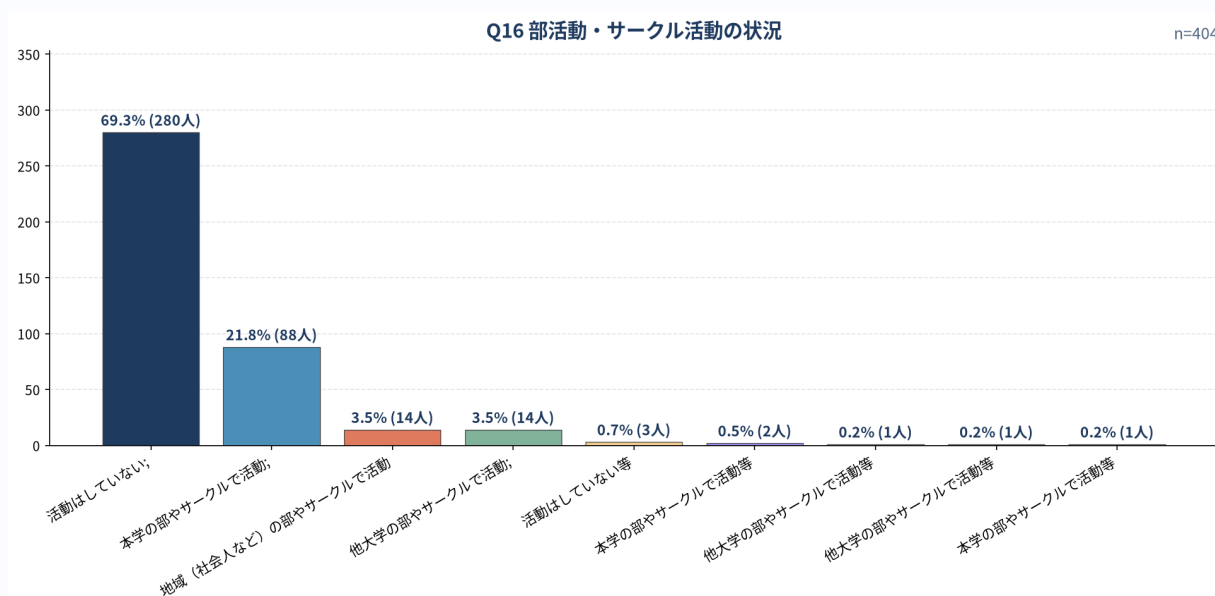


したことがない 55.4% (225) / 以前はしていたが、現在はしていない 28.8% (117) / 単発を不定期や長期休暇中のみしている 10.3% (42) / 定期的に行っている 5.4% (22)

Q16

部活動・サークル活動の状況

n=404

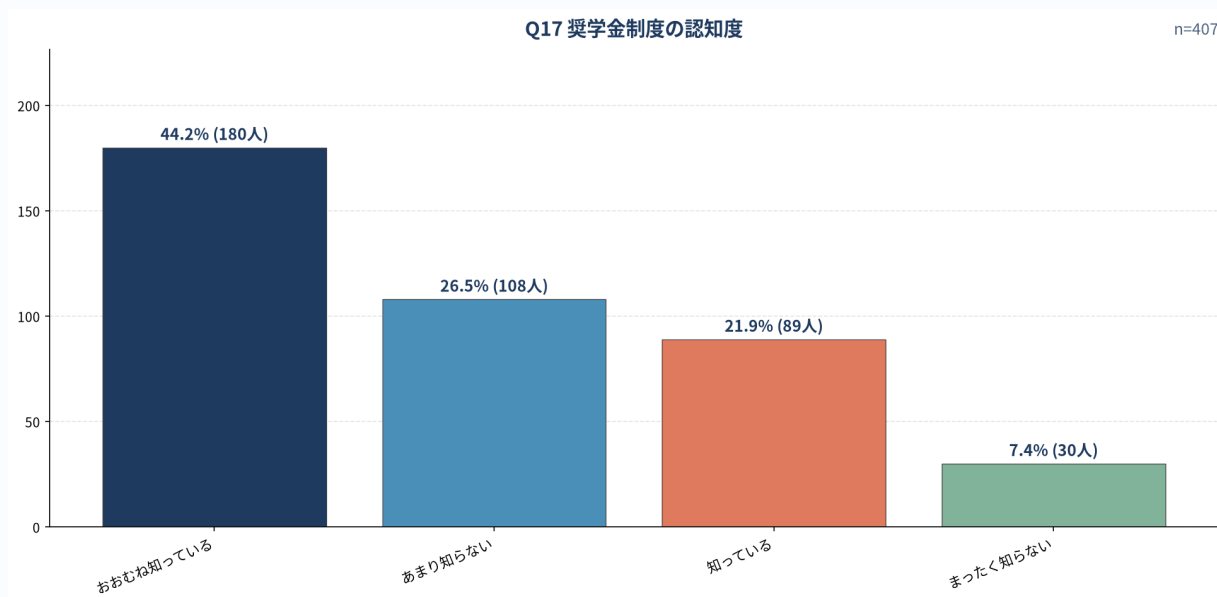


活動はしていない; 69.3% (280) / 本学の部やサークルで活動; 21.8% (88) / 地域 3.5% (14) / 他大学の部やサークルで活動; 3.5% (14) / 活動はしていない; 地域 0.7% (3) / 本学の部やサークルで活動; 他大学の部 0.5% (2) / 他大学の部やサークルで活動; 地域 0.2% (1) / 他大学の部やサークルで活動; 活動はし 0.2% (1) / 本学の部やサークルで活動; 活動はして 0.2% (1)

Q17

奨学金制度の認知度

n=407

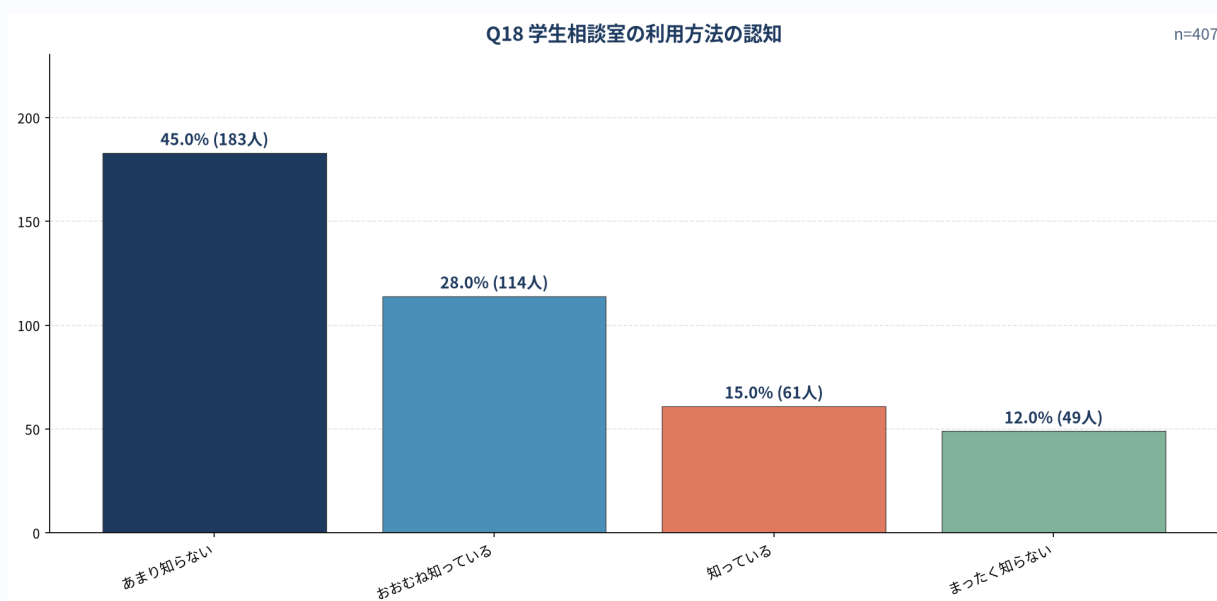


おおむね知っている 44.2% (180) / あまり知らない 26.5% (108) / 知っている 21.9% (89) / まったく知らない 7.4% (30)

Q18

学生相談室の利用方法の認知

n=407

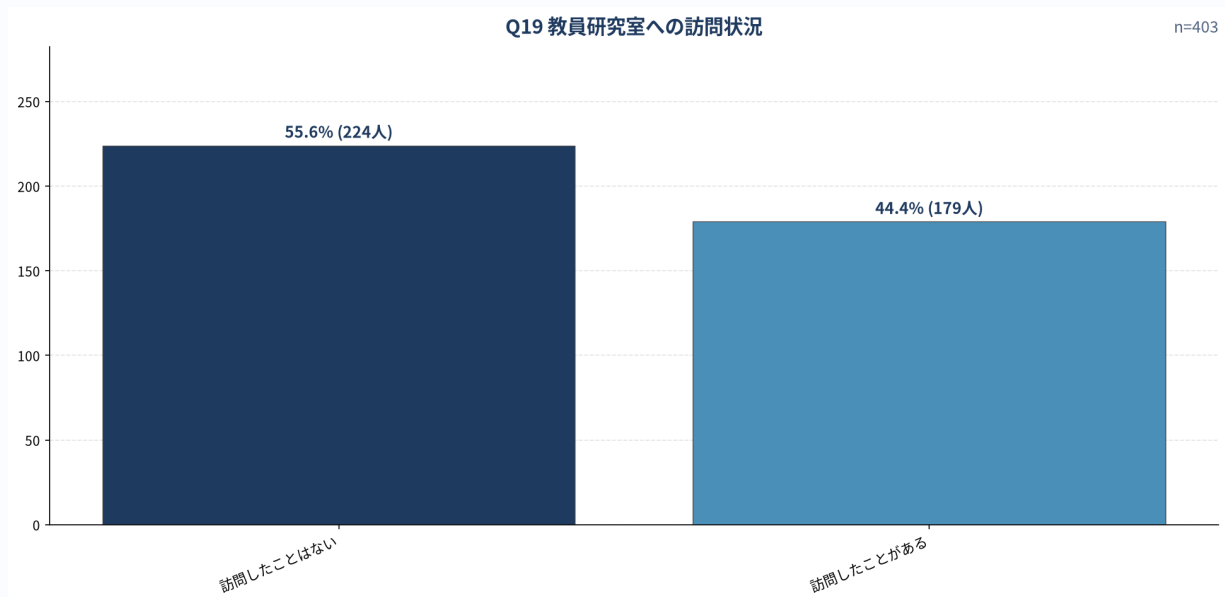


あまり知らない 45.0% (183) / おおむね知っている 28.0% (114) / 知っている 15.0% (61) / まったく知らない 12.0% (49)

Q19

教員研究室への訪問状況

n=403

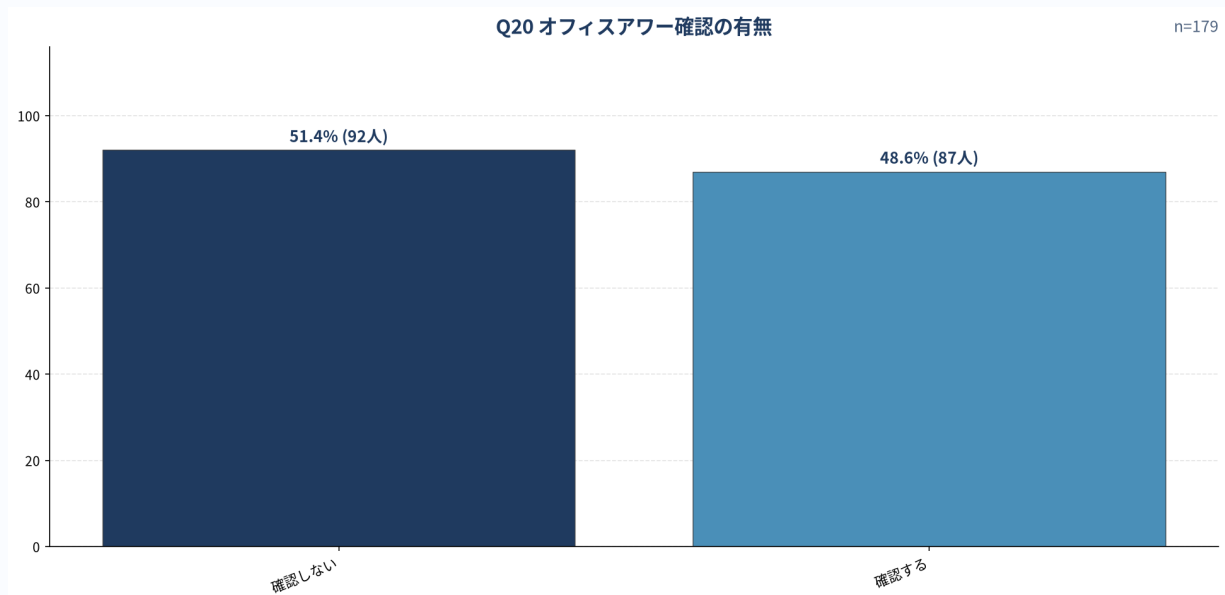


ない 55.6% (224) / ある 44.4% (179)

Q20

オフィスアワー確認の有無

n=179

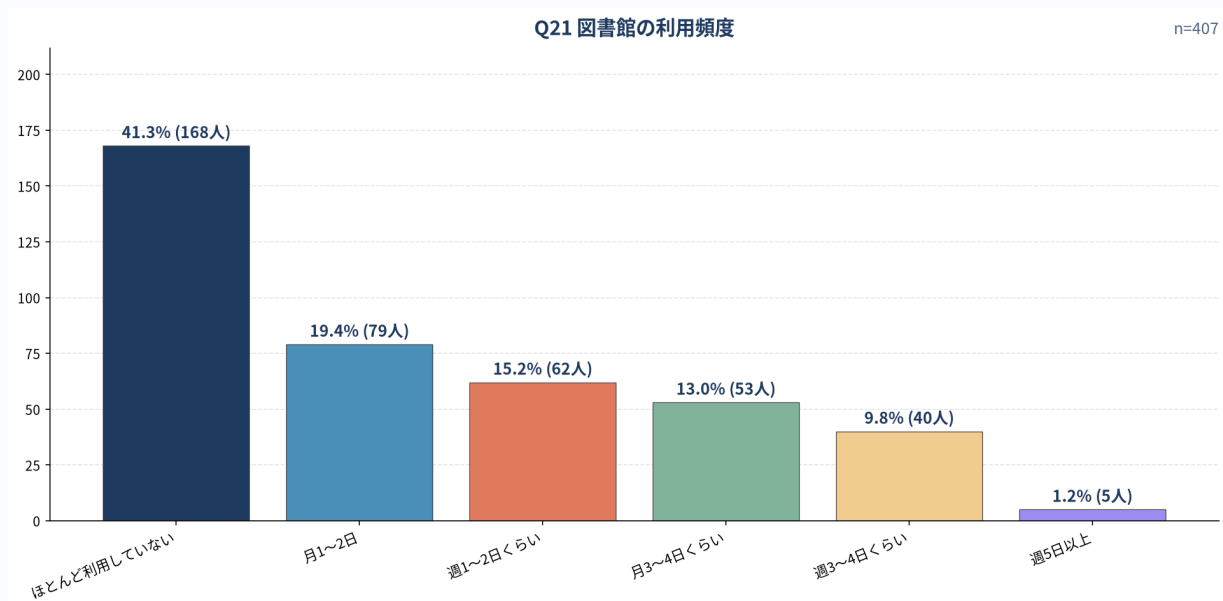


確認しない 51.4% (92) / 確認する 48.6% (87)

Q21

図書館の利用頻度

n=407

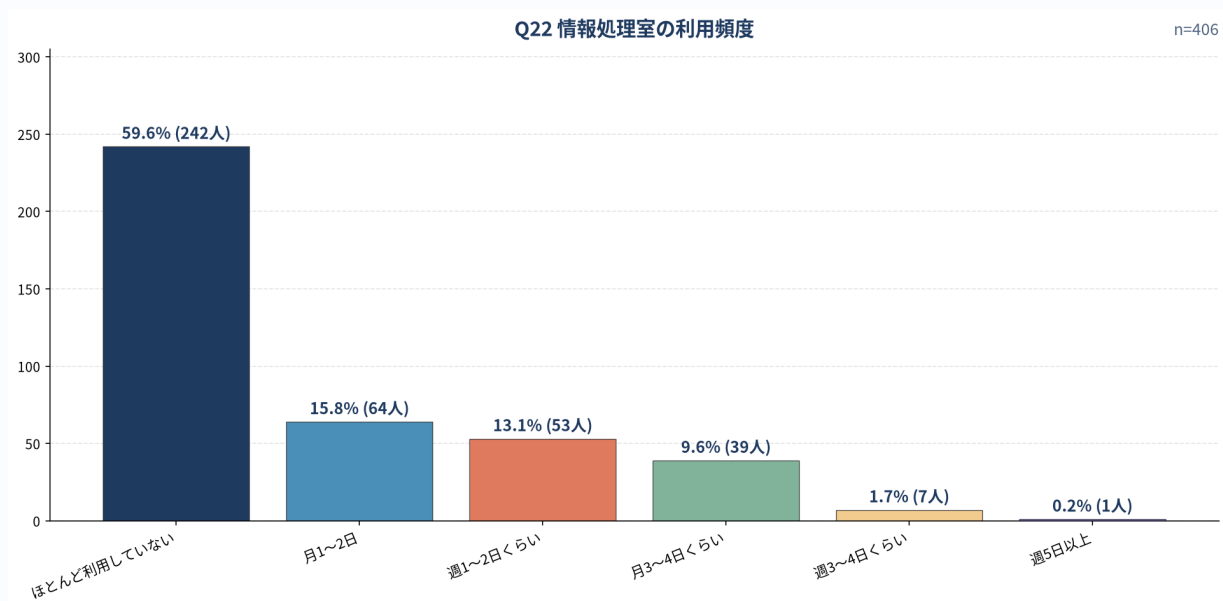


ほとんど利用していない 41.3% (168) / 月1~2日 19.4% (79) / 週1~2日くらい 15.2% (62) / 月3~4日くらい 13.0% (53) / 週3~4日くらい 9.8% (40) / 週5日以上 1.2% (5)

Q22

情報処理室の利用頻度

n=406

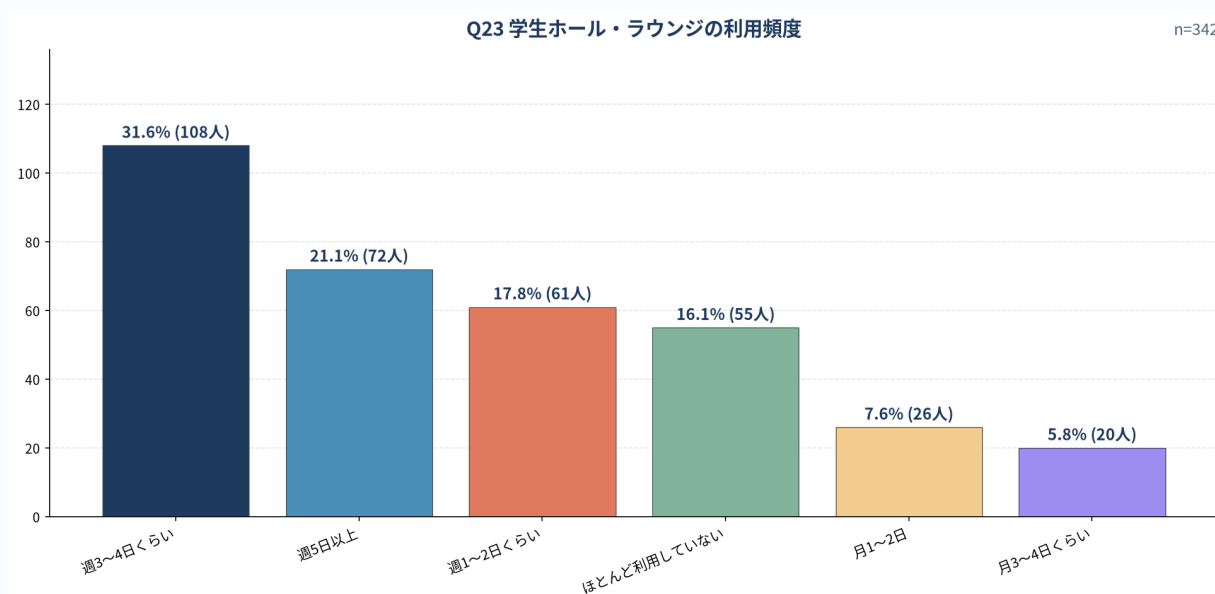


ほとんど利用していない 59.6% (242) / 月1~2日 15.8% (64) / 週1~2日くらい 13.1% (53) / 月3~4日くらい 9.6% (39) / 週3~4日くらい 1.7% (7) / 週5日以上 0.2% (1)

Q23

学生ホール・ラウンジの利用頻度

n=342

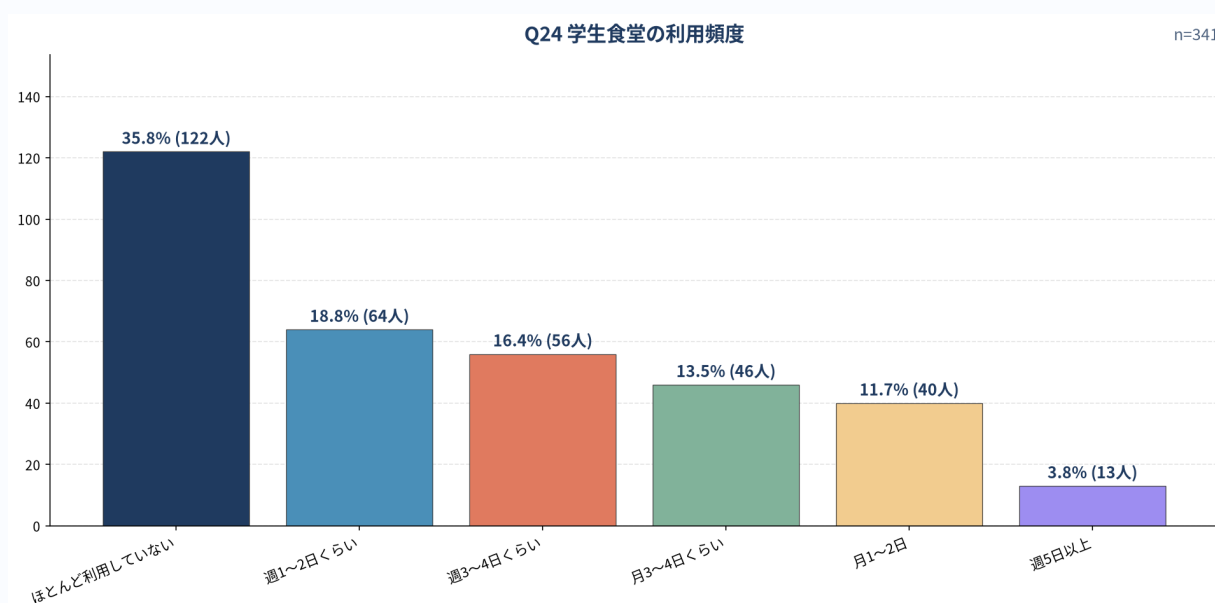


週3~4日くらい 31.6% (108) / 週5日以上 21.1% (72) / 週1~2日くらい 17.8% (61) / ほとんど利用していない 16.1% (55) / 月1~2日 7.6% (26) / 月3~4日くらい 5.8% (20)

Q24

学生食堂の利用頻度

n=341



ほとんど利用していない 35.8% (122) / 週1~2日くらい 18.8% (64) / 週3~4日くらい 16.4% (56) / 月3~4日くらい 13.5% (46) / 月1~2日 11.7% (40) / 週5日以上 3.8% (13)